

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2019年												2020年																			
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月 ~2日	8月 ~9日	8月 ~16日	8月 ~23日	8月 ~30日	9月 ~6日	9月 ~13日	9月 ~20日	9月 ~27日	10月 ~4日	10月 ~11日	10月 ~18日	
カンピロバクター	56	46	78	65	87	128	102	107	157	62	49	91	42	46	55	54	92	177	241	55	28	26	50	30	36	24	16	21	18	28	25	
病原性大腸菌	85	81	77	69	51	59	51	37	85	46	41	39	22	34	39	30	24	63	60	11	26	7	22	10	19	15	10	8	10	8	4	
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	0	0	1	0	0	0	1	4	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0		
サルモネラ	5	3	11	6	3	11	5	12	18	9	13	13	4	1	2	4	10	7	14	11	4	3	6	5	4	3	2	7	0	4	1	
黄色ブドウ球菌 MSSA	10	9	12	13	14	24	11	17	15	8	10	26	6	20	11	3	9	15	15	4	3	5	4	4	7	2	1	3	2	2	2	
黄色ブドウ球菌 MRSA	22	16	22	14	11	12	18	12	15	10	10	10	10	11	17	8	14	14	11	1	8	2	2	4	1	1	6	1	0	3	1	
腸炎ヒブリオ	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	1	0	0	3	1	2	4	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	5	1	1	0	0	0	0	
ロタウイルス	2	3	2	9	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
アデノウイルス	0	0	1	0	1	3	2	1	0	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ノロウイルス	23	23	11	11	2	5	0	1	1	0	6	19	10	14	6	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報 令和2年第42週(10月12日~10月18日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	9	結核	9		1			4	2	2
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症	2					1		1
四類	12	日本紅斑熱	11			5		1	2	3
		レジオネラ症	1	1						
五類	8	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1					1		
		後天性免疫不全症候群	1					1		
		急性脳炎	1		1					
		梅毒	5					1	1	3
指定	10	新型コロナウイルス感染症	10	2	0	0	0	8	0	0

注) 西部 … 大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東 … 竹原市、東広島市、大崎上島町
東部 … 三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部 … 三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

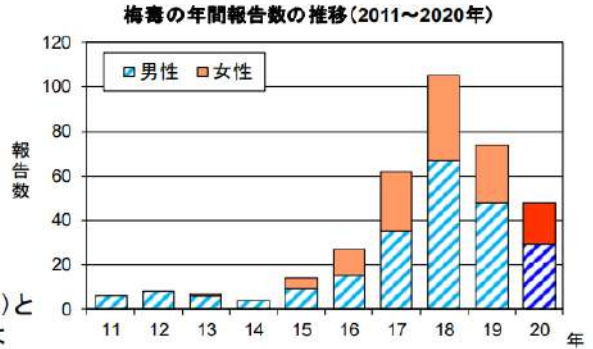
1 新型コロナウイルス感染症

第42週に8件の報告があり、累計は348件(10月18日現在)となりました。発熱、咳、味覚・嗅覚障害などの症状がある場合は、外出を控え、早めにかかりつけ医やコールセンター(TEL:082-241-4566)に連絡・相談しましょう。また、「3密」の回避、マスク着用、手洗いなど感染予防、拡大防止対策を徹底しましょう。

2 梅毒

第42週に1件の報告があり、累計は48件(昨年同時期は65件)となりました。報告数は、2015年から増加傾向となり、2018年には100件を超える報告がありました。2019年はやや減少していますが、引き続き注意が必要です。

梅毒は、感染部位と粘膜や皮膚の直接の接触(性的接触など)により感染します。感染後3～6週間の潜伏期を経て、感染部位にしこりができたり、鼠径部のリンパ節が腫れることがあります。また、妊娠している人が感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、死産・早産等が起こることがあります。梅毒に感染した恐れのある方は、早めに医療機関を受診しましょう。また、感染した方のパートナーなど、周囲で感染の可能性がある方も検査を受け、一緒に治療を行うことが重要です。



保健センターの無料・匿名の梅毒検査
 広島市の保健センターでは、無料匿名の梅毒検査を実施しています。詳しくは下記ホームページをご覧ください。
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/72/2986.html>

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
フィルン	インフルエンザ	-	-	0.24			小児科	流行性耳下腺炎	8	0.33	0.48		
小児科	咽頭結膜熱	3	0.13	0.34			眼科	RSウイルス感染症	1	0.04	1.15		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	0.63	1.88	⇒			急性出血性結膜炎	-	-	-		
	感染性胃腸炎	38	1.58	4.52	⇒		流行性角結膜炎	1	0.13	0.75			
	水痘	1	0.04	0.24			基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		
	手足口病	18	0.75	1.57	⇒			無菌性髄膜炎	-	-	-		
	伝染性紅斑	1	0.04	0.17				マイコプラズマ肺炎	-	-	0.20		
	突発性発しん	18	0.75	0.40				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
ヘルパンギーナ	6	0.25	0.28			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-				

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	105	男性(30歳代)、女性(40歳代)、男性(80歳代)、男性(90歳代)
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	21	男性(10歳代)・O血清群不明
4	日本紅斑熱	1	3	女性(50歳代)
5	後天性免疫不全症候群	1	10	男性(30歳代)・感染者
5	梅毒	1	48	男性(60歳代)
5	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	5	女性(90歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	発熱(40.4℃) 咽頭炎 周期性発熱	0	女	2020/09/07	鼻汁	ライノウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載